



県立燕中等教育学校 令和3年度学校だより

Glocal News

通算第167号 令和4年3月24日(木)発行

※ 本校ホームページ <http://www.tsubame-ss.nein.ed.jp/>

第12回卒業証書授与式

今年度もコロナ禍の影響で規模を縮小せざるを得ない状況でしたが、3月16日(水)に第12回卒業証書授与式を挙行することができました。12期生55名は凜とした姿で立派に卒業していきました。新しい生活様式の中、それぞれの進路で頑張っているほしいと願っています。

答 辞

厳しい寒さも和らぎ、柔らかな春の日差しを感じる季節になりました。

本日は、私たち12期生55名のために、このように盛大な式典を挙行してくださり、校長先生をはじめとする先生方、職員の皆様、在校生の皆さんに深く感謝申し上げます。また、御多忙の中を御臨席賜りました保護者の皆様に卒業生一同、心より御礼申し上げます。

振り返れば、私たちが六年前にこの燕中等教育学校に入学した時も、このような緊張感と期待を感じていました。入学してすぐのオリエンテーションキャンプでは、新潟の自然を感じつつ仲間との親睦を深め、これからの六年間に期待を膨らませていました。

種子島への修学旅行では、日本の科学技術の進歩を学ぶと同時に、これからの未来の選択肢の多さや、そのスケールに圧倒されたことを覚えています。また、民泊という初めての体験を通してその土地の人と関わり、新潟県とは違ったその土地ならではの暮らし方を知ることができました。

ホームステイや現地の学校に通うという、初めての体験に満ちていたオーストラリアへの海外研修では、12期生全員が大きな成長を遂げることができました。最初は慣れない環境の中でうまくコミュニケーションをとることが出来ず、毎日焦りと不安ばかり感じていました。しかし、だんだんと英語のみの生活に慣れ、学校でもホームステイ先でも、積極的に英語を使うことが出来ました。学校ではバディの生徒や、その友達とも会話をし、授業に参加することも出来ました。授業の中で、日本と全く異なる内容に触れるなどして、

幅広い視野に立って学ぶことが出来ました。ホームステイ先に帰るとホストファミリーと話したり、一緒に映画を観たりと、様々な思い出と一緒に作ることが出来ました。文化も言語も何もかもが違う環境の中で、多くの挑戦と挫折、そして成功を経験できたことは、私たちの大きな財産です。

6年生になって迎えた飛燕祭は12期生をはじめ、全校生徒が一丸となって取り組んだ行事でした。準備の段階から多くの話し合いを重ね、協力し合って作り上げた行事でした。時には意見が合わず衝突して口論になったり、上手く連携が取れなかったりと、大変な思いをしたこともありましたが、当日まで数々の失敗と成功を重ねました。その努力のおかげか、当日は最高の晴天に恵まれました。応援合戦の時の熱気と気迫、そして感動は一生忘れられません。開催が危ぶまれる中で尽力してくださった先生方、たくさんの協力をしてくれた在校生の皆さん、そして最後まで切磋琢磨し合い、支え合ってきた12期生の皆さんには感謝しかありません。六年間という長い時間の中で、私たちに全力で向き合ってきてくださった先生方。毎日の授業を楽しく受けられたのは先生方のおかげです。授業以外にも多くのことを学ばせていただきました。私たちが6年生になり、進路に迷った時には親身になって考えてくださったり、一緒に悩んでくださったりと、心強い味方でいてくださったからこそ、最後まで戦い抜けたのだと思います。本当にありがとうございました。

12期生の皆さん。六年間を楽しくてかけがえないものにしてくれてありがとう。他愛もないことで一緒に笑い合うなど、休み時間いっぱいのおしゃべりも、もうあの教室ですることはないと

思うとどこか寂しい気持ちになります。それでも、燕中等での思い出を胸に、新天地でもお互いに頑張っていきましょう。

ずっと支えてくれたお父さんお母さん、今までたくさん迷惑をかけました。心配させるようなことも多かったと思います。そのような中でずっと支えとなり、私たちのよりどころとなってくれてありがとう。いつも言葉にできないほど感謝しています。

そして在校生の皆さん、今までありがとうございました。飛燕祭をはじめとする多くの行事で、皆さんがいてくれて良かったと思うことは数えきれないほどありました。いつでも努力を惜しまず、まっすぐに私たちと向き合ってくれる皆さんの前で、私たちは先輩としての姿を見せられたでしょうか。いつでも真摯に物事に取り組んでくれる皆さんなら、これからの燕中等をより良くしてくれると信じています。私たちはいつでも応援しているということを忘れず、毎日を大切に過ごしてください。

ここ数年は、新型コロナウイルスの影響で世界が一変してきました。顔の半分が見えない中での日

常生活、遠く離れた場所での授業、開催できなかった学校行事など、先の見通しが立たない中での生活は全ての人に大きな負担を強いました。この状況を変えることは簡単ではありません。しかし、私たちがどのように生きていくかを変えることはできます。私たちは燕中等で互いに協力し合い、時には困難を乗り越えながら大きな物事を成し遂げる力を身につけました。また、様々な人と交流し、物事を多面的に見る力を身につけてきました。これらの力を活かして、これからの時代を生き抜いていきましょう。

私たちの六年間は決して私たちだけの努力で出来たものではありません。たくさんの人に支えられ、手を引かれ、背中を押されてできたかけがえない六年間です。そのような私たちの六年を形作ってくださった先生方、支援する会をはじめとする地域の皆様、全ての人々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

結びに、これからの燕中等教育学校のますますの発展と皆様の御健康と御多幸をお祈りし、答辞とさせていただきます。

令和4年3月16日

卒業生代表

